日刊 動労千葉

84.8.1

No. 1705

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二―八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六・（公衆）〇四七二（22）七二〇七

臨調・行革粉砕！　三里塚ジェット闘争勝利！

今こそ底力・団結力を示そう

木更津支部で職場集会

支部通信員・発

木更津支部職場集会は七月十三日、臨調―合理化・職場規律厳正攻撃と、密集せる反動の嵐を突き破る闘いとして開催された。

組合員四〇名が参加

組合員四〇名の圧倒的結集をもって、冒頭あいさつにたった斉藤支部長は、現在政府、国鉄当局が打ち出している攻撃として、①余剰人員対策と称した「出向」「一時帰休」「退職勧奨」提案、②「60・3ダイ改」へ向けた検修合理化、③基地統廃合、④職場規律の厳正攻撃の本質を鮮明にし、どう対決し闘っていくのか、の方向性を明らかにした。

続いてあいさつにたった、本部山口副委員長は、

① 国鉄労働運動をめぐる今後を決する状況が到来し、国鉄労働者がどう生きるのか、まさに正念場の闘いであり、この攻撃の狙いは軍事大国化→日本労働運動の拠点つぶしであること。

② 「職場規律の厳正」は、職場支配権の奪還、管理体制の強化であり、これと対決するため職場での闘いがより重要となっていること。

③ 「過員」問題―「出向」「一時帰休」「退職勧奨」は現行協定を無視した攻撃であり、事実上の首切り攻撃であること。

④ 動乗勤に続く検査周期改悪問題は、地上勤の勤務形態を変えるものであること。

等々について明らかにするとともに、当面の取り組みとして、職場規律を前面に押し出した当局と対決することを宣言する場として、7・17津田沼総決起集会への総力決起を訴えた。

熱気あふれる討論を経て意志統一

討論に入り、次の意見が出された。

① 検修要員を営業関係へ転勤させようとする策動に対し、どう職場で対決していくのか一人一人が問われている。

② 「転換教育」中に年休をとったということで、卒業をのばし、補習授業を行うことは既得権を奪う攻撃だ。

③ 津田沼における乗務中の喫煙を理由とした乗務停止は許されない。

④ 検査周期改悪と対決し、徹底的に闘うべきだ。

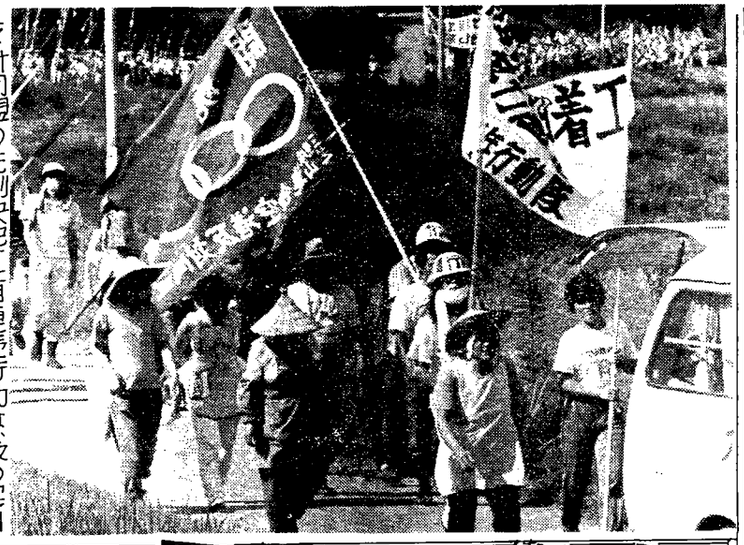
⑤ EC転換教育について。

⑥ 運転保安確立にむけ、踏切、線路状況の改善を当局に強力に要求すべきである。

等々、質問、意見、決意を含め多くの発言があり、熱気あふれる討論が行われ、意志統一を行った。

臨調―行革、軍事大国化攻撃、職場規律の厳正攻撃と、やりたい放題の攻撃をかけてきている政府、国鉄当局に対し、今こそわれわれの底力を示そうではないか。

今こそわれわれの団結力を示そうではないか。まさしく今後を決する状況の到来であるといえる。



反対同盟の先制決起＝七月連続行動は、敵の「七月着工」策動を粉砕した。焦る敵は「八月初旬」突破を狙って、機動隊を徘回させ、工事請負い企業の入札を強行した。（写真は、七月才七波目の菱田現地行動）

緊急アピール

「用水」8月着工阻止！

臨戦体制に入れ！

千葉　1984年（昭和59年）7月31日（朝日）

成田用水 菱田工区 来月にも着工の線

担当業者決まる

成田空港開業の見返り事業とされていながら着工が延びている山武郡芝山町の成田用水菱田工区のほ場整備事業の入札が三十日、千葉市と成田市で行われ、担当業者が決まった。成田市の入札会場には、成田用水に反対する三里塚・芝山連合空港反対同盟員が押しかけたが、トラブルはなかった。用水事業の主体である県は、八月中にも着工したい考えだが、反対の動きは根強く、着工がさらに延期される可能性もある。

菱田工区は全体で七十㌶。県は六十三年度までにかんがい排水、ほ場整備事業を終えたい計画だ。今年度はこのうち十六㌶分が整備されることになっており、三十日は三工区に分けて業者選定が行われた。二工区分は千葉市内で、残りの一工区は成田市内で入札され、いずれも県内業者が落札した。

この事業は、国から六五％の補助を受けていることから七月中に契約を済ませ、八月に着工、来年二月末までには工事を終えなくてはいけない。しかし、反対同盟からは「成田用水は二期工事の布石」などと強い反発が出ているほか、同意していない地主農民も多い。

「八月初旬着工」が焦点化している。七月十日、敵は機動隊を正面に立ててふみ込んできた。（接地建捕の弾圧。二〇日、反対同盟は非常臨戦体制突入の檄を全国に発した。

あくまでも反対同盟を守り、連帯し、「用水」粉砕・二期実力阻止を闘いぬくぞ！

動労千葉、全支部に「緊急動員体制の確立」を指令

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！